

# 大学生における課外活動とライフスキルの関係

## 一部活動とアルバイトに着目してー

マスコミュニケーションゼミナール 1313067 山本 宏樹

### 1. 研究動機・研究目的

大学生と高校生までの大きな違いの一つに、授業に拘束される時間の少なさが挙げられる。つまり、大学生は高校生と比較して課外活動に利用できる時間が多くある。高校までは授業以外の時間でできる活動は部活動のみであったが、大学生はそれ以外にも様々な課外活動に取り組んでいるのである。本研究では課外活動を大きく分けて、部活動とアルバイトの2種類に分けることとする。実際に筆者が、就職活動をするうえで、面接や自己PRを考えたときに、部活動とアルバイトは自己成長を実感する大きな要因であった。グループ面接などで、他の学生の自己PRなどを聞いていると、部活動とアルバイト経験について語っている学生がほとんどであった。このことから、部活動とアルバイトには自己成長に大きな影響を及ぼしているのではないかと考えた。部活動のみに所属している学生、アルバイトのみ活動している学生、両方で活躍する学生、どちらにも所属していない学生にはライフスキルの獲得に違いがあると考えた。部活動で獲得できるスキルについての研究として、多くの先行研究が見られた。しかし、アルバイトで獲得されるスキルについての研究は、あまりされていなかった。そこで、本研究では、大学生における、部活動所属者と部活動無所属者、アルバイト経験者アルバイト無経験者のライフスキル獲得にどのような差があるのかを明らかにすることを目的とする。

### 2. 研究方法

本研究は、大学1年生から大学4年生の120名を調査対象とした。このうちデータ欠損のある回答者を除外し、最終的に118名を分析対象とした。

#### ①フェイスシート

大学名、学部、学年、性別のほかに、部活動の有無および継続状況、接客アルバイトの有無、継続状況の回答を求めた。

#### ②日常生活スキル評価尺度（大学生版）

この尺度は、ライフスキルを「効果的に日常生活を過ごすために必要な学習された行動や内面的に心の働き」とし、8つの尺度を評価できる24項目の質問で構成される。24項目の評定は4段階の自己評定（1：まったく当てはまらない～4：とても当てはまる）で行い、評定の値が高いほど日常生活場面でのライフスキルが高いことを示す。また、8つのライフスキルは、主に対人および個人場面で必要となるスキルに分けられ、対人場面には「親和性」「リーダーシップ」「感受性」「対人マナー」、個人場面には「計画性」「情報要約力」「自尊心」「前向きな思考」といったスキルが設けられている。ここでの尺度の信頼性と妥当性は先行研究（島本・石井、2006）で確認されている。

### 3. 主な結果と考察

まず、性別によるライフスキルの関係である。感受性においては、男性よりも女性の方が高い得点を示し、情報要約力においては、女性よりも男性の方が高い得点を示した。感受性が男性より女性の方が高い得点を示したことにおいては、男性より女性の方が、表現力が豊かであり、感情豊かである事が考えられる。情報要約力が女性より男性の方が高い得点を示したことにおいては、男性はより効率よく物事を進められることができると考えられる。

部活動の有無によるライフスキルの関係について、すべての群において有意な結果が得られなかった。これは、本研究で対象とした学生が、もともと高校時に部活動に取り組んでいた学生が多く、高校時に部活動で獲得できるスキルを、すでに獲得している可能性が考えられる。

アルバイト経験者とアルバイト無経験者について、前向きな思考において、アルバイト経験者の方がアルバイト無経験者よりも5%水準で有意に高い得点を示した。他の群においては、有意な結果が得られなかった。これは、アルバイトを、前向きな思考で取り組んでいる学生が多いことから、このような結果が出たと考えられる。

### 4. 結論

本研究の目的は、大学生における、課外活動がライフスキルの獲得にどのような影響を及ぼしているかを明らかにすることであった。しかし、フェイスシートでアンケートを実施した結果あまり大きな差がでない結果になってしまった。この要因としては、アンケートを実施した学生の人数が少なかったこと、体育会系の学生が多かったこと、アルバイト無経験者が少なかったことが、大きな要因として考えられる。単に運動部の所属の有無のみならず、より細分化して考えることや、アルバイトを業種などでさらに細分化し考えることも、必要であると考えられる。

### 5. 卒業論文の執筆を終えて

まず、テーマを考えることにとても苦労した。ただ単に、自分の好きなこと、気になることをテーマにするのもいいが、より内容の濃いものにするためには、安易にテーマを決めてしまうと後々行き詰ってしまう。テーマを考える上で身の回りの疑問などをゆっくり考えることができたのは、あまり意識してすることではないので、貴重な時間だったと思う。

そして、卒業論文を苦労して書き上げたことは、今後の自分の自身になっていくと思う。社会に出て、自分で発信する、そしてプレゼンをして他人に理解してもらうスキルは、とても重要になってくる。今回の卒業論文は、それらのスキルを身につけるいい機会だったと思う。

最後に、担当教授である神原直幸先生のフィードバックは適切でとてもためになるものであった。教授に、時間を取ってもらってフィードバックをしていただける機会と言うのは、あまりないことだと思う。卒業論文以外にも、個人的にお世話になったことや、ゼミの学生で神原先生と輪を深めたことは、大学生活の良い思い出となるだろう。神原直幸先生、お世話になりました。ありがとうございました。